



山形県立保健医療大学

# 看護実践研究センター

看護実践水準の向上・大学/大学院教育との連動



公立大学法人 山形県立保健医療大学



山形県立保健医療大学  
公式マスコットキャラクター  
ワイワイ



# 看護実践研究センターとは

看護実践研究センターは、県内の看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等を行うことにより、本県の看護実践水準の向上を図ります。「山形発・地元ナース養成プログラム」の実施・運営の中心を担う役割を契機として、平成26（2014）年12月1日に開所しました。

令和元（2019）年度からはセンター事業を再編成し、対象を山形県内の看護職全体に広げ、地元ナース事業とともに実施してきました。令和7（2025）年度より今日的な看護職の生涯学習支援の方針に基づき展開しています。

## 看護実践研究センター

01  
地元ナース  
事業

02  
教育力向上  
事業

03  
地域連携・  
地域貢献  
事業

連  
動

山形県内の看護職の  
看護実践水準の向上

支援

連携

県・市町村  
保健医療福祉機関  
県看護協会など

山形県立保健医療大学・大学院

大学 / 看護学科  
大学院 / 看護学分野





## 「地元ナース」とは

超高齢化と人口減少が進展し、かつ医療資源や公共交通機関が少ない地域において、住民は「地元」の小規模病院（病床数が原則として200床未満の病院）・診療所・高齢者施設（以下、小規模病院等）の医療福祉を頼りとしています。「地元ナース」とは、そのような小規模病院等を利用して、地元住民の多様な健康問題に幅広く対応するなど、地域の強み・弱みを包括的にとらえ、多職種と連携し住民力を活かした看護を実践する、これまでの臨床看護の範疇にとどまらないジェネラリズムな専門家としての看護職です。

### 看護 実践研究 センター

#### 地元ナース事業

##### 小規模病院等の看護職

- ・所属病院等の価値の再確認
- ・看護実践への自信の獲得
- ・人的ネットワークの構築
- ・大卒看護職のロールモデルとなる基盤形成

### 地元住民の 安心な生活

#### 地元医療福祉を 強化した地元ナ ース養成に関する教育

- ・大学生に小規模病院等での看護実践を伝える
- ・所属病院等の看護師研修の企画・実施にいかす
- ・大学の実習を受け入れる

### 地元ナース

#### 小規模病院等

看護実践の質の向上  
看護職人材の確保  
(採用・離職防止)

### 地元 医療福祉 向上

相互理解

#### 大学 学生・教員

- ・地元医療福祉への関心の深化
- ・地元ナース就業への基盤形成

#### ICT 活用

ネットワーク  
の構築

受講

提供

#### 大学院履修証明プログラム 「地元ナース特論」



## 大学教育との連動

開学以来積み重ねてきたチーム医療教育の実績を活かし、新しい発想で地元ナース養成の教育開発に取り組み、地元で就業する価値を理解した学生の育成を目指しています。



### 地元ナース養成科目

#### 「地元（やまがた）探求Ⅰ・Ⅱ」

“地元（やまがた）”の概要を理解し、学生個々人の“地元”に対する理解と愛着を深める。

#### 「相互理解連携論」

個人、集団、地域等の「連携」の基礎や実際について、保健医療福祉以外にも含めて広く学習する。「多職種連携協働（チーム医療）」に適應できる能力、技術、考え方について教授する。

#### 「ジェネラリズム看護論」

地元ナースの活動の基盤形成に繋がるように、人々の多様な健康問題、看護へのニーズの状況を概観し、地方の小規模病院等の場において求められる看護について探求する。



## リカレント教育 (学び直し)

小規模病院等に勤務する看護職を対象とした教育支援について、今日的な看護職の生涯学習支援の観点から見直し、統合・拡充します。

従来「小規模病院・診療所、高齢者・障がい者施設、訪問看護ステーション・在宅ケア関連機関に勤務している看護師・保健師・助産師」に加え、「地元医療福祉の推進に関心のある看護師・保健師・助産師」も含めます。それにより、中規模病院等の地域包括ケア病棟勤務者、離職者、その他（看護専門学校教員や看護協会関係者等）も履修が可能となります。

地元ナース事業と再編後の関係は下記の通りです。

令和6年度 (2024年度) まで	令和7年度 (2025年度) 以降
履修証明プログラム・小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム	「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」「フォローアップ研修」「看護 up to date」「相互交流事業」を統合拡充し、大学院履修証明プログラム「地元ナース特論」へ
フォローアップ研修 (上記のアドバンス教育)	
看護 up to date (診療所看護職対象の教育)	
相互交流事業 (小規模病院等と大学教員の相互理解)	
連携協力病院会議・地元ナース懇談会	連携協力病院会議・地元ナース懇談会は継続
Jナースカフェ	Jナースカフェは、県内外交流へ

大学院履修証明プログラム「地元ナース特論」は60時間 (40回) です。共通科目45時間 (30回) 及び選択科目15時間以上 (10回以上) から構成されています。共通科目の内容は「今日の看護・看護教育/地域包括ケア時代の看護」「看護実践と専門的アセスメント」「看護実践と研究」です。選択科目の内容は「エビデンスに基づく看護ケア」「ケア創造に向けた発想・連携」「次世代育成プログラムの設計」「看護実践の哲学」「看護研究力の醸成」です。

「地元ナース特論」は大学院の科目等履修生の制度に則った履修であり、受講料が必要です (67,600円)。一方、部分的な受講を行うこともできます。

受講料は当面の間、無料です。

看護実践研究センターはリカレント教育 (学び直し) を推進する役割を担います。協力病院との連携や外部評価を担う地元ナース懇談会を開催します。



## ICT活用

ICT (Information and Communication Technology) とは、情報通信技術の総称です。リカレント教育では、大学から遠隔地にある病院等の看護職の方々が受講しやすいように、ICTを活用した教育を展開します。

大学から遠隔地にある小規模病院であってもICTを活用することで、効率的に講義を受けることができます。

## 看護研究相談・支援

看護職の研究能力が向上し、看護実践への波及効果を目指し、県内の小規模病院等に勤務する看護職の方を対象に相談・支援を行います。

看護研究方法の研修や  
研究の実践・発表に  
向けた支援

大学職員と小規模病院の  
看護職の共同研究（課題  
対応研究等）の企画・実践  
や発表等に向けた支援

小規模病院等の看護職の  
看護実践力向上に向けた  
研究や研修会・講演等の  
相談や支援

## シミュレーション教育

シミュレーター等を活用した看護技術や対応を学びます。

## 看護専門学校教員との協働

看護教育の方法を検討します。



## 山形県からの看護に関する様々な事業の受託

## 母子保健コーディネーター研修

助産師・保健師等が専門的な研修を受け、妊娠・出産・育児のさまざまな疑問・悩み・相談に包括的に対応する母子保健コーディネーターを養成しています。平成28年度～令和6年度で、延べ821名が研修を受けました。

## 看護体験セミナー

平成25年度～令和6年度で、1164名が参加しました。（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）

## 看護教員養成講習会

令和2年度に14名が修了しました。12名が看護専門学校の教員、1名が職能団体の教育研修に携わり、1名は病院の臨床指導者として活躍しています。

## 山形県立中央病院との連携

看護学科3年生あるいは4年生対象の山形県立中央病院体験セミナーの実施や、病院看護師と大学教員の共同研究などを推進しています。

## 山形県との協働による看護職のスキルアップ

看護職の専門性や実践能力に関する国や関係団体の動向を注視し、山形県と協働しながら時代の要請に応じた検討を行います。平成30年度～令和元年度は、保健師助産師看護師法で規定されている特定行為研修について調査しました。

## 卒業生支援

大学を卒業生のHOMEと位置づけて卒業生を大学に招き交流を図る「ホームカミングデー」を毎年1回行っています。





## 山形県立保健医療大学 看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳260番地 TEL/FAX : 023-686-6614  
 E-mail : ns-cent@yachts.ac.jp    <https://www.yachts.ac.jp>  
 E-mail : ken-cent@yachts.ac.jp (看護研究相談・支援専用)

山形県立保健医療大学

大学詳細  
WEBにて  
コチラ

